

# 「テレビとの付き合い方」(東京書籍5年下)

広島市立舟入小学校 石原美由紀

## (1) 教材について

「今年流行する色は、この色！」毎年、ファッション誌には「今年の流行」として紹介されている。流行色が決まれば、その情報が瞬く間に広まり、ファッション業界ではその色を中心とした宣伝が多くなる。子どもたちも、流行と聞くと、時代の先端を走るかっこよさを感じるようである。特に、高学年の子どもたちにとっては、とても魅力的な響きとなりやすい。ファッション誌だけでなく、テレビでその映像が流されると、視覚的にも聴覚的にも刺激を受け、ますます、魅力的な情報として受け取る。しかし、流行色が誰にでも似合うわけではないことは、明らかである。だが、「あなたも今年の流行を取り入れて…」とささやかれているような心境になりやすい危うさがある。

テレビは、私たちに、大量で広範囲の情報を提供してくれる大変便利なメディアである。日常的に誰もが身近な存在として感じていると言っても過言ではない。子どもたちにとっても、テレビから得られる新しい情報は、役に立つもの、楽しみを提供してくれるものだろう。しかし、受け取っている情報は、丸ごとではなく編集の過程で一面的な情報に加工され、提供されていることなどは考えもしていない。

本教材は、テレビのよい点、問題点の具体的な例を挙げながら、生活の中でメディアとうまく関わる事の大切さに気づかせる教材である。テレビは身近な存在だが、情報の内容は、一面だけが切り取られて限られてしまう。その問題点を、筆者は「白い部分」「黒い部分」として簡潔に図に表し、具体例を挙げて内容を捉えやすくしている。また、筆者は、「白い部分」を忘れないようにしながら、テレビと付き合いが必要であると主張し、テレビに対して、ひとりひとりが主体的に判断して行動することを促している教材である。だが、本教材には、論の根拠を明確に示すため、また、いろいろなメディアについて考えさせるため、テレビだけでなく、グラフ、写真など、様々な情報が盛り込まれている。しかし、日常生活に生かせる学びにしたいので、子どもたちにとって一番身近なメディア媒体であるテレビを中心にした「パンフレット作り」を言語活動に設定した。

そこで、まず、筆者の事例や根拠、読み手への説得の仕方など筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握して読ませる。次に、発信する「人」や発信する「意図」「効果」など情報について分析したり、受け取り手として感じたことを話し合わせたりして、多面的に考えさせる。言語活動では、「パンフレット」を書く、送り手のパンフレットを受け手として読み取る、情報の特徴に気づき、自分自身がどのように情報と向かい合うことが必要なか交流して考えを広げさせるなど、日常生活に生かすことができるようにさせたい。

## (2) 学習目標について

### ① 価値目標

国語科「読むこと オ」では、「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」が指導事項になっている。

そこで、5学年の道徳1-(3)「自由を大切に、自立的で責任のある行動をする。」と関連付けて、「日常生活の中の身近な情報について、受け取り手は一部の情報のみで全てを判断せず、事実から自立的に考えたり判断したりして正確に受け止めたり、誰かに正確に伝えたりするためにはどうしたらよいのか、多面的に考えること。」を価値目標として位置づける。

メディアについての教育として「メディアリテラシー」教育が、学校でも行われている。しかし、個人情報の流出や犯罪に巻き込まれないようにという内容の実践が多いのが現状である。また、「メディアリテラシー」といえば「情報処理能力」とか「情報発信能力」などとも考えられている。ここでは、テレビという一般家庭には一台以上普及し、子どもたちに大きな影響力をもつものに対して「情報を多面的に考え分析・判断して、受信したり発信したりしていく能力」を形成したいと考えて設定した。そのために、情報の受け手の立場と送り手の立場とを行き来するような活動、情報を多面的に分析する活動、多様なものの見方・考え方を促すような資料・情報を取捨選択させる活動を取り入れたい。

## ② 技能目標

- (ア) 関連する指導事項の中心は、読むことウ「事実と感想、意見などとの関係を押さえ自分の考えを明確にしながらかんたりすること。」である。
- (イ) この指導事項を受け、本単元では、まず、「どのような事実を事例・理由・根拠としているのか」、「論証したり読み手を説得したりしようとするのか」など筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にする。次に、自分の知識や経験と関係づけながら、自分の立場で書かれている意見について分析しながら読むことを指導する。したがって中心の目標は、「例と意見との関係に注意して読み、多面的なものの見方や考え方を身につける。」となる。
- (ウ) これらに加え「資料を注意深く読み取り、筆者の論の展開にそって伝えたいことを的確に書き、メディアについて見方や考えを広げたり深めたりすること。」も技能目標とする。受け手・送り手として立場を変えることで、送り手にはどんな意図があるのかを多面的に分析する受け手として、目的のある資料を選択し自らの考えを表現できる送り手として、進んで社会と関われる力を伸ばしたい。

## ③ 態度目標

メディアにおける編集の仕方や表現の仕方について関心をもち、メディアと自分たちとの関わりについて考える態度を養う。

## (3) 言語活動と活動目標

○言語活動 『タイプ別パンフレット』作り

○活動目標 いろいろなニーズに合わせ、喜ばれる情報を届けよう

五年生は、社会科で産業について学習し、様々な産業が生活を潤し、社会を形成していることについて、見聞を広めたり、関心をもったりしている。その産業の産物について実際のものを見聞きしたり、また、生活の中でテレビや広告（ちらし、パンフレットなど）から、身近に様々な情報を得ながら間接的に触れたりして生活している。

そこで、「タイプ別パンフレット」を書く言語活動を設定し、テレビコマーシャルや広告ちらしなどから情報を取り出して、ニーズに合わせた切り口で取捨選択してパンフレットの形態に作り直させる。教材文の「白い部分」は、コマーシャルやちらしなどの雑多な情報とする。そのいろいろな情報を多面的に分析・整理して要約・分類を行い、「〇〇タイプの人におすすめパンフレット」として書かせる。「タイプ別を書く」という設定により、雑多な情報を焦点化でき、要約という思考につなげることができる。これは、教材文の「黒い部分」とつながると考える。また、教材文は、尾括型の設定であるが「〇〇タイプの人には、□□という点でおすすめ。」と全体を一文でまとめる頭括型に書き換えて、パンフレット情報の見出しとしたい。

言語活動の交流として、このパンフレットを内容別にコーナーに展示して読み合う交流をさせたい。コーナー内でさらに、「〇〇タイプ別」と分類する。内容別コーナーは、「白い部分」であり、タイプ別分類は、「黒い部分」となるよう、展示して見合う交流の際も意識させて読み合い、全体（白い部分）と部分（黒い部分）について、意見交流をさせていき、より多面的に考えさせる場としたい。

## (4) 方法と評価 (全8時)

活動目標＝単元名（パンフレットを作って、ニーズに合った喜ばれる情報を届けよう）

	言語活動	学習目標	評価方法
導入 2時	<p>○「車」のCMを視聴して、自分がテレビとどのように関わって生活をしているのか振り返らせる。</p> <p>○「テレビとの付き合い方」を事例と意見に注意させながら読み、筆者の意見に対して自分の意見をもたせる。</p>	<p>(態度目標形成)</p> <p>○「車」のCMの視聴し、何をどのように感じながら受け止めたか共通点、相違点を浮き彫りにして意見交流し、CMの意図や効果について考える。</p> <p>○「テレビとの付き合い方」を読み、日常生活でテレビとどのように関わり合う事が大切なのか知りたいという思いを持つ。</p>	・発表
展開 ①	<p>○「タイプ別パンフレット」を作るために、筆者の事例と意見の関係、「白い部分」と「黒い部分」、資料を用いた「人」「意図」「効果」について読み取らせ話し合わせる。</p>	<p>(技能目標形成)</p> <p>○筆者の事例や根拠、読み手への説得の仕方など筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握して読む。</p> <p>○発信する「人」「意図」「効果」など情報について分析したり、読み取った本文や資料について「白い部分」「黒い部分」など受け取り手として感じたことを話し合わせ、多面的に考えさせる。</p>	<p>・発表</p> <p>・ノート</p>
展開 ②	<p>○送り手の意図を考えながら、CMから「内容別」の見出しを書いたり、広告から「タイプ別」パンフレットを書いたりする。</p>	<p>○お気に入りのCMを選ばせたり、CMと関係する広告を集めさせたりする。CMは4種類程度にし、各CM毎に細かいタイプ別に分類する。</p> <p>○情報の送り手としてパンフレット作りをさせる。その際、「白い部分」、「黒い部分」について、書く内容を明確にさせる。</p> <p>例： 「白い部分」 ・内容別（CMの送り手の意図を考え見出しを作る） →トヨタ車「爽快な走り」 （だれが、どんな効果をねらって発信したCMなのかを考えて見出しを各自作る） 「黒い部分」 ・タイプ別（広告から自分が書きたい情報のタイプを絞ってパンフレット作る。「お客さんが、□□なるような効果をねらったパンフレット」を作ろう」という設定にする） →エコカー（お客さんが、環境に配慮した車を選びたくなるような効果をねらって書いたパンフレット） →ハイブリッド車（お客さんが、経済的で快適な車を選びたくなるような効果をねらって書いたパンフレット） →ワゴン車（お客さんが、家族みんなで遠出をしたくなるような効果をねらって書いたパンフレット）</p> <p>○事実と感想、意見などを区別すること、目的や意図に応じて主体的に判断して書くこと、求められている分量や表現の仕方（見出しの書き方など）にあわせてまとめることを意識させて書く。</p>	<p>・見出し</p> <p>・パンフレット</p>
4時			

<p>終結</p> <p>2時</p>	<p>○「車」「衣類」「スポーツ用品」などの内容別にコーナーを設定し、各コーナー毎により細かくタイプ別に分かれたパンフレットを読み合い感想を交流する。</p> <p>○交流後、日常生活の中で、情報とどのように関わるのが大切か考えを広げるために、感想を書く。</p>	<p>(価値目標形成)</p> <p>○送り手の意図的に書かれたパンフレットを読み、受け手として、意図や効果、不十分さなど多面的に読み取ること、情報の特徴に気づき、自分自身どのように情報と向かい合うことが必要なのか、書かれたパンフレットを読み合い交流する。</p> <p>○感想交流の中で、送り手としての意図が伝わっていたり、予想外の感想を聞いたりする中で、「情報を多面的に考え分析・判断して、受信したり発信したりしていく」ことの大切さについて考えさせる。</p> <p>○日常生活の中で、情報とどのように関わり、行動することが大切なのか考えを広げたり深めたりするために、今回の学習を振り返って感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表</li> <li>・ パンフレット</li> </ul> <p>・ 感想</p>
---------------------	--	---	--

- 「白い部分」 見出し (CMを視聴して)

「集まれ スポーツ 大好きっ子」

名前 A男

世界の アスリート が よいしれる

**sports wear**

**それが アディダス**

名前 B子

- 「黒い部分」 パンフレット (広告から情報を収集・分析して)

アディダス で

**勝ちくせ**

○有名選手モデルシューズ

**このモデルで いざ 勝負!**

○ 軽いはき心地

かかとへの負荷も 激減

○26センチ~  
(残りわずかなサイズもございます)

店頭にて実際にお試しください。

\*このほかにも、各種取り揃えております。

○クール 夏はなんといっても汗の対策が一番

そんなあなたにおすすめ商品

¥ 8,000 (S, M, L)

色 (黒・白・ブルー)

デザイン 豊富! 話題 満載

この夏 ニューモデル ウエア

○ UV対策

強い日差しになんか負けられない!

フードつきで首周りも

気にせず、アクティブに!

通気性も抜群!

¥ 1,2000 (S,M,L)

(5) 最後に

様々なメディアに囲まれて生活している現状では、個々人が必要に応じて適切に情報と関わる知性・感性・品性が問われている。身近で多量の情報に対して、高学年の子どもたちが立ち止まって考え、自分の判断で責任をもって生活できるように促していきたい。また、情報の送り手の立場でパンフレット作りをすることは、生産者の意図を考えながら行うので、子どもたちは新鮮な感覚を覚えるのではないだろうか。さらに、パンフレット交流の時の相違点は、考えの広がりや深まりとなるので、大切に組みませたい。